



7月7日は七夕です。七夕飾りの短冊に、子ども達の願い事はどんなことが書かれるのでしょうか。

子ども達の思いが天まで届きますように。



今月は『育てたように子は育つ』（相田みつを書、佐々木正美著）という本をご紹介します。

1999年初版のこの本は、今までにもきっずぽけっとミニ通信で何回か取り上げられました。相田みつをさんの書画のことばを児童精神科医の立場から佐々木正美さんが《心のくすり》として、子育てをするお父さん、お母さんに向けて紹介しながら解説しています。

本の帯には作家の赤川次郎さんがこんな言葉を書いています。“ここに収録されたことばの一つ一つは、子どもを自分の思い通りになる人形だと思っている親たちにとっては鋭い刃となるが、子どもとともに悩み、一緒に成長しようと願う親には、このうえなく温かい励ましのことばとなっている。”

本の中の20選の詩を通して語られる佐々木正美さんのことばに勇気付けられたり、はっと反省したりする自分がいます。

その佐々木正美さんが一番好きな相田さんのことばを紹介します。

\*\*\* そのままで いいがな \*\*\*

これこそ、子どもへの最高の愛情の表現である。すなわち無条件の承認である。条件をつけない愛情である。こういう愛情が与えられれば、子どもは必ず生まれもったものを豊かに開花する。(中略)

「こういうことができるに越したことはないが、できなくていいんだよ」とか「そういうことができればいいけど、いつからそれができるようになるかは、自分できめて努力すればいいんだ。いつまでも待っていてやるから。できなくたって、いいんだよ。」せめてこれくらいのメッセージをしておいてやりたいものだと思う。佐々木正美著「育てたように子は育つ」より